

〔感染症発生動向調査企画委員会情報〕

11月報

インフルエンザ定点（小児科定点を含む）

インフルエンザ

報告数215件（前月比1.8・前年同月比1.4）とやや増加しています。八代（報告数47、定点あたり6.7）、宇城（同38、同6.3）が多いようです。定点当たり報告数が、1.0を越していないのは、阿蘇（定点当たり0.3）のみでした。今後増加が予想されますので注意が必要と考えられます。年齢的には幅広く分布しています。

小児科定点

（全体傾向）

報告総数4,097件（前月比1.57、前年同月比1.39）でした。前月比2.0と増加した疾患は、感染性胃腸炎が10月の1,130件から2,305件、A群溶連菌咽頭炎が273件から547件、咽頭結膜熱が60件から122件、水痘が27件から59件です。また伝染性紅斑の件数が2件から11件と件数は少ないのですが前月比では11.0と増加しています。前月比で減少した疾患は、RSウイルス感染症（前月比0.4）とヘルパンギーナ（同0.5）でした。

（疾患別傾向）

1. RSウイルス感染症 : 報告数141件（前月比0.4、前年同月比0.7）です。9月の666件をピークとして減少しています。菊池33件（定点あたり6.6）、人吉15件（同5.0）、有明25件（同5.0）に多いようです。県内半数から二桁の報告がある一方で、報告のない地区が2カ所ありました。0歳～1歳を中心としています。2歳～5歳の報告もあります。
2. 咽頭結膜熱 : 報告数122件（前月比2.0、前年同月比0.9）です。7月以降50件前後の報告でしたが、11月は122件と多くなりました。菊池（報告数33件・定点あたり6.6）、天草（同24件・同6.0）、有明（同27件・同5.4）に多いようです。年齢も1歳を中心として、小児から幅広い報告があります。
3. A群溶連菌咽頭炎 : 報告数547件（前月比2.0、前年同月比2.0）です。報告数は前月前年比ともに多いのですが、推移としては例年同様です。菊池111件（定点あたり22.2）、宇城66件（同16.5）、有明71件（同14.2）、八代54件（同13.5）に多いようですが、阿蘇を除き県下から報告があります。4～6歳を中心とし幅広く報告があります。
4. 感染性胃腸炎 : 報告数2,305件（前月比2.0、前年同月比1.7）と推移としては例年並みです。有明511件（定点あたり102.2）、菊池486件（同97.2）が特に多いようですが、県下すべての地区から定点当たりで二桁の報告があります。年齢別でも各年齢層で三桁の報告があります。例年通りであればこれから増加すると思われます。
5. 水痘 : 報告数59件（前月比2.2、前年同月比0.8）と、5月を除いて、ここ数年では低い水準で推移しています。山鹿11件（定点あたり5.5）、天草11件（同2.8）菊池13件（同2.6）、人吉7件（同2.3）からの報告が多いようです。報告地域に偏りがあるようで水痘接種率などの地域別対策の調査検討が必要でしょう。予防接種は2014年10月から定期化されていますので、接種率向上で2歳、3歳は報告が減ればと考えます。
6. 手足口病 : 報告数175件（前月比1.2、前年同月比0.5）と、発生は例年と同様に減じています。有明42件（定点あたり8.4）、山鹿16件（同8.0）に多いようです。年齢も1歳にピークがあります。
7. 伝染性紅斑 : 報告数11件（前月比5.5、前年同月比11.0）です。今年は一桁の発生で続いていましたが、初めて二桁になりました。熊本3件、菊池3件、宇城2件ですが約半数の地区から少数ですが報告があります。

8. 突発性発疹 : 報告数162件(前月比1.4、前年同月比1.3)と、例年同様の推移です。菊池の32件(定点当たり6.4)と有明26件(同5.2)が多いようですが、御船・阿蘇を除き県下各地から報告があります。3歳から1件の報告がありました。
9. ヘルパンギーナ : 報告数90件(前月比0.5、前年同月比1.1)で、9月以降の減少が続いています。天草34件(定点当たり8.5)に多く、菊池22件(同4.4)が次に多いようです。3歳以下の報告が多いようです。
10. 流行性耳下腺炎 : 報告数38件(前月比1.7、前年同月比0.9)と、昨年末以来の低い水準が続いています。山鹿22件(定点当たり11.0)が特に多いようです。他の地区で発生が見られたのは、菊池6件(同1.2)、有明4件(同0.8)、宇城3件(同0.8)・熊本3件(同0.2)でした。0歳児の報告はなく年齢層も幅が広く、予防接種にて予防可能な疾患であり積極的対策の実施が必要と考えられます。

眼科定点

1. 急性出血性結膜炎 : 報告はありません。
2. 流行性角結膜炎 : 報告数93件(前月比1.1、前年同月1.7)熊本82件、菊池2件、有明9件の報告です。年齢別では30~39歳台にピークがありますが、1~3歳、40~69歳の発症も目立ちます。

STD定点

※平成25年1月から、定点医療機関数の見直しに伴い、定点医療機関が13医療機関から16医療機関に増えました。

1. 性器クラミジア感染症 :
報告数58件(前月比1.1、前年同月比1.2)で、前月比、前年比とも僅かに増加しています。男女別は、女性に30件とやや多く見られました。年齢別は、男性は20~34歳に16件と多く見られ、女性は20~24歳に11件と多く見られています。地区別は、熊本が42件と多く、次いで有明7件、菊池3件、御船、八代各2件、人吉、宇城に各1件でした。
2. 性器ヘルペスウイルス感染症 :
報告数20件(前月比0.7、前年同月比1.1)で前月比はやや減少、前年比では僅かに増加しています。男女別は、男性に11件とやや多く見られました。年齢別は、男性は25~70歳以上、女性も30~70歳以上と幅広く見られています。地区別は、熊本が15件と多く、次いで菊池3件、八代、宇城に各1件でした。
3. 尖圭コンジローマ :
報告数12件(前月比2.4、前年同月比1.5)で、前月比、前年比とも大幅に増加しています。男女別は、男性に9件と圧倒的に多く見られました。年齢別は、男性の25~29歳に3件と多く見られ、女性は25~44歳に見られています。地区別は、熊本7件と多く、次いで宇城3件、菊池、有明に各1件でした。
4. 淋菌感染症 :
報告数14件(前月比1.0、前年同月比0.6)で、前月比では同数、前年比では減少しています。男女別は、男性に13件と圧倒的に多く見られました。年齢別は、男性は20~59歳と幅広く見られ、女性は30~34歳に1件見られています。地区別は、熊本13件と圧倒的に多く、次いで有明1件でした。

基幹定点

(月報分)

1. メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症：

報告数20件（前月比 1.1、前年同月比 1.3）でした。13件（65%）が70歳以上でした。人吉（6件、定点あたり6.0）、阿蘇（5件、定点あたり5.0）が多くなっています。

2. ペニシリン耐性肺炎球菌感染症：

報告数9件（前月比 1.8、前年同月比 1.8）でした。ここ約3年で最高の報告数です。今後の推移に要注意です。60歳以上が5件で、1-4歳が4件です。熊本（6件、定点あたり1.2）が多くなっています。

3. 薬剤耐性緑膿菌感染症：

報告数0件（前月比 +0、前年同月比 +0）でした。

(週報分)

1. 細菌性髄膜炎： 報告数0件（前月比 +0、前年同月比 +0）でした

2. 無菌性髄膜炎： 報告数5件（前月比 5.0、前年同月比 1.3）でした。熊本（4件、定点あたり1.2）、山鹿（1件、定点あたり1.0）、人吉（1件、定点あたり1.0）が多くなっています。小児では5-9歳1件です。他25-59歳の4件です。

3. マイコプラズマ肺炎： 報告数1件（前月比 0.3、前年同月比 0.2）でした。熊本、10-14歳の1件です。

4. クラミジア肺炎： 報告数0件（前月比 +0、前年同月比 +0）でした。

5. 感染性胃腸炎（ロタウイルスによる）：

報告数0件（前月比 +0、前年同月比 +0）でした。2-5月に増加しますので今後注意が必要です。

届け出対象感染症

1類感染症	： ありませんでした	
2類感染症	： 結核	35件
3類感染症	： 腸管出血性大腸菌感染症	5件
4類感染症	： 重症熱性血小板減少症候群	1件
	つつが虫病	6件
	デング熱	1件
	レジオネラ症	2件
5類感染症	： ウイルス性肝炎	1件
	カルバペネム耐性腸内細菌感染症	1件
	急性弛緩性麻痺	1件
	侵襲性肺炎球菌感染症	6件
	水痘（入院）	1件
	梅毒	10件
	百日咳	6件
	風しん	5件